

東京 TS ネット主催セミナーVol.19 開催レポート（2025年12月20日開催）

2025年12月20日、東京 TS ネットセミナーVol.19「医療観察法とはナニモノか」を開催しました。当日は約60名の方にご参加いただき、講師には付添人経験が豊富な姜文江弁護士と、鑑定経験が豊富な精神科医の中島直先生（多摩あおば病院院長）をお招きしました。

まず姜先生からは、医療観察法の仕組みや具体的な手続きの流れ、そして制度が抱える問題点について解説いただきました。特に対象行為からの時間的規制の欠如や鑑定手続きの重複といった「法制度の課題」に加え、入院期間の長期化や指定医療機関ごとの治療方針の差異といった「運用上の課題」を詳しくご説明いただきました。施行から約20年が経過してもなお、詳細な統計が公表されず、効果の検証もなされていないという事実には、私自身も強い衝撃を受けました。

続いて中島先生からは、制度に批判的な精神科医というお立場から、統計に基づき日本の精神医療の本質的な課題をご指摘いただきました。医療観察法における長期入院や、スティグマ（偏見）に基づく社会的入院、さらには誤診の存在について言及されました。その上で「法律関係者が、精神科への入院を『深刻な拘禁（人権侵害）』として十分に捉えられていないのではないか」という鋭い提起がなされました。

質疑応答では、精神保健福祉法と医療観察法による入院環境の具体的な違いや、現状をいかに解決すべきかについて活発な議論が交わされました。特に印象的だったのは、「現状を変えるためには、市民がこの問題に関心を持つべきだ」という講師陣からのメッセージです。精神医療をタブー視せず、多くの人が関心を持って批判的議論を行うことの重要性を再確認する、非常に貴重な機会となりました。

東京 TS ネット学生サポーター 見富修一郎

